

豊かな人間性を育てるための視聴覚教材や 教育機器の活用はどうあればよいか

視聴覚教育研究会

I. 研究について

1. 研究のねらい

視聴覚教育研究会では、「豊かな人間性を育てるための視聴覚教材や教育機器の活用はどうあればよいか」をテーマに研修を重ねている。今日では普段の教育実践において、板書、掲示物、資料の提示(写真画像や動画等々)は日常的に行われている。授業のねらいに迫る教材・機器の活用のあり方を探ることは、本会の会員のみならず、授業に臨むすべての教職員にとって必要欠くべからざる課題であると考えるところである。児童生徒の学習への意欲を引き出し、興味・関心を高め、理解の定着を助け表現力や創造性を高めるために、視聴覚教材や教育機器を効果的に活用していくことは、本会の大きな課題であると位置づけている。

今年度もこれまでの研究と同様に、授業で勝負、授業のねらい達成の一助としての教材機器の活用、とのスタンスを明確にし、教材の作成や学習場面への効果的な取り入れ方について、じっくりと目を向けていくべき方向性を確認した。

2. 研究の方法

メディアの多様化と、会員個々の研修に対するニーズが多岐にわたる現状において、今年度も、会員一人一人が設定した「個人研修」のテーマに沿って取り組んでいく形式とした。

本年は研究大会の行われない年であるが、例年行われている夏季研修会などにおいて、会員のスキルアップと情報交換を行った。電子黒板の活用は外国語活動などで活用事例が増えていることやタブレット端末を授業に活用している学校もあるなど、現場における視聴覚機器の活用方法は日々進化していることを感じさせられた。

また、本会では研修がスムーズに進められるよう、一昨年に組織の再編成を行った。個々の会員が「研究部」「研修部」「広報部」の3部門

に分かれて研修に取り組むようにした。今年度はそれぞれの部門に以下のような事業を追加し会員一人ひとりが役割を果たせるよう、研修を進めている。

研修部→授業に活用できそうな

視聴覚機器の情報収集

研究部→視聴覚機器の活用の仕方

広報部→それらの情報発信と会員の

自作教材の共有化

3. 研究大会に向けて

来年度の研究会は、大仙市立藤木小学校、同大曲南中学校を会場に行うこと決定され、研究体制と本会のかかわり方について両校と確認を行った。具体的には、次のようになる。

- ① 研究大会に向けて研究の方向性
- ② 研究大会に向けて随時、会員による研究授業等への協力援助を行うこと。
- ③ 必要な機器の貸し出し、活用のための研修への参加。

会場校と協力して研修することで、来年度の研究大会を実り多いものとしたい。

II. 関連事業について

1. 夏季研修会

8月3日、大仙市立大曲西中学校コンピュータ室を会場に以下のような夏季研修会を行った。参加人数は24名であった。教材作りのコツを教えていただき、これからの授業に生かせる有意義な一日を過ごすことができた。優れた教材は共有化できるように環境を整えたい。

コース1

「教材作りのためのエクセル活用」

講師:(株)アイネックス 佐々木加代子氏

コース2

「教材作りのためのワード活用」

講師:パソコン教室 C-Space 草薙雅也氏